いわて高等教育コンソーシアム
The Iwate Higher Education Consortium
NEWS LETTER
第5号
March 2011
http://www.ihatov-u.jp/

Index

ご挨拶 1
TOPICS 2
・いわて学
・公開講座2010
・SD・FD合同研修会
・FDキャラバン
・YLIS国際合宿研修2010
・学生の地域参加プロジェクト
・八幡平市人材育成事業
・平泉文化フォーラム
・駅前講義
・平成22年度シンポジウム
・合同フォーラム
学生インタビュー
今後の予定 6
いわて高等教育コンソーシアム新体制 6
連携校紹介 7
編集後記 8
8

どうした特徴を打ち出すか
～「教育尊重」の戦略など　～

盛岡大学
学長　望月 善次

Ⅰ. 危うい外来語としてのコンソーシアム

「コンソーシアム」の原綴り「consortium」を手元の英英辞典で引いてみると、「a group of people, countries, companies, etc, who are working together on a particular project」（下線望月、『OXFORD現代英英辞典』）とある。要するに問題は「a particular project」にあり、更に言えば、particular にどうした特殊性を与えるかであろう。

ところで、「コンソーシアム」は、その定着度が問題になっている外来語でもある。国立国語研究所の「外来語」委員会の評価では、御承知のように「★☆☆☆」となっている。つまり「その語を理解する人が国民の4人に1人に満たない段階」にあるわけで、定着度は極めて低い語であることを示している。従って、所謂「言い換え語」の候補にもなっており「共同研究体　共同企業体　企業連合」などが提案されている。

我が「いわて高等教育コンソーシアム」は、現在50弱の団体が所属している「全国大学コンソーシアム協議会」でも遅い結成になるわけであるが、こうした遅さは、いかにも岩手らしいのだが、上述した「コンソーシアム」の定着度からすれば、一つの見識を示したことになるという強弁もあり得るのだということを敢えて述べておこう。

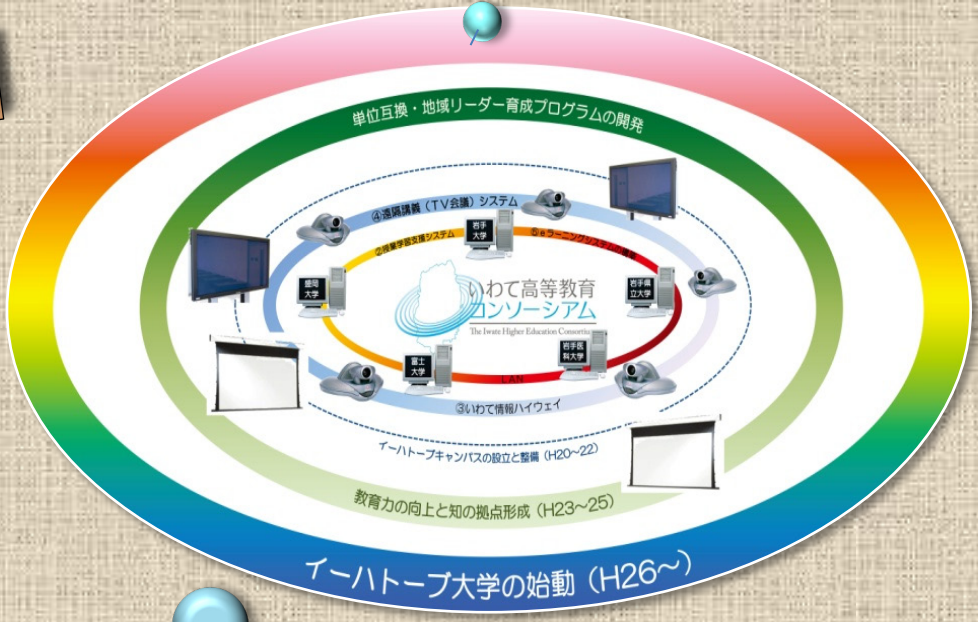
Ⅱ. どうした特徴を発揮するか?

「Ⅰ」で述べた経過はさておいて、既に発足したのだから、こうなった以上その有効性を探らねばなるまい。5大学という大学数の少なさ、構成14学部が全て異なるという条件は、私達こそが「結成する」理由と必然性とを強く有しているのだとも言えよう。

そして折角結成したのだから、全国的にも際立つ特徴が欲しい。その特徴が、「この点は、いわてコンソーシアムから起こった。」と言われるものを確立したい。それこそが、補助期間を終えて自分達の足で歩み出そうとする「第2期」の課題であろう。

いくつかの可能性があろうが、例えば「教育重視しか生きのびる道がない日本」について根本的且つ斬新な提案はできないものかと祈っていることを結論的に記しておこう。

TOPICS



いわて学

「地域人材育成（岩手学）講座の開設」事業では、初の5大学共通科目として今年度開講した「いわて学」前期・後期の2つの授業を無事終了しました。授業は、5大学の教員のほか、県内各分野で活躍している外部講師を招いての講義、県立博物館や平泉での現地講義、他大学の学生とのグループ学習等を交えて行われました。

平成22年度前期「いわて学Ⅰ」～いわての地域特性を知り可能性を探る～
期　間：4月17日（土）～6月19日（土）の期間中8日間、計15回
主会場：盛岡駅西口マリオス内188会議室
担当教員：【岩手県立大学】佐々木民夫、豊島正幸、他
履修者：37名（履修放棄者除く）
公開講座：6/12の授業を一般へ公開　一般受講者232人

平成22年度後期「いわて学Ⅱ」～平泉から知るいわて～
期　間：10月16日（土）～12月11日（土）の期間中8日間、計15回
主会場：盛岡駅西口アイーナ812研修室
担当教員：【岩手県立大学】佐々木民夫、豊島正幸【盛岡大学】熊谷常正、他
履修者：47名（履修放棄者除く）
公開講座：11/13、11/27の授業を一般へ公開　一般受講者のべ53名

学生からは、「充実した内容だった」、「『いわてについて学びたい！』という思いを実現できた」、「いろんな大学の人と交流できてよかった」等の感想が寄せられました。

平成23年度も前期「いわて学Ⅰ」、後期「いわて学Ⅱ」を引き続き開講していきます。公開講座も予定していますので、ぜひご受講ください。

（＊平成23年度の「いわて学」講座については、p.6掲載の「今後の予定」欄をご参照ください。）

「いわて学Ⅰ」でのまとめ・発表

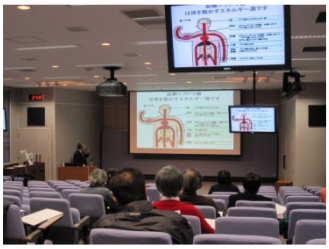
「いわて学Ⅱ」平泉での現地講義
柳之御所遺跡公園

公開講座2010

5大学から各1名の講師と基調講演として外部から1名の講師を招聘して、「いわて高等教育コンソーシアム公開講座2010」を、「豊かに生きる」をテーマに、5大学共通講座として実施しました。会場となった岩手大学北桐ホールには、一般参加者のべ82名が参加いたしました。

各大学では、それぞれに特色ある公開講座を実施していますが、この度、5大学共通の公開講座を始めて開講しました。5つの大学に共通となるテーマをどう設定し、担当する講師をいかに調整できるかどうかが、実施の鍵となりました。平成23年度以降は、各大学で実施している既存の公開講座との連携でコンソーシアム公開講座を開催することで継続する予定です。本年度の実施内容は以下の通りでした。

第1回10月9日「健康とは何か」（基調講演、岩手大学　立身政信教授）、「高齢期の栄養；食から作る健康長寿」（盛岡大学　笹田陽子教授）、第2回11月13日「健康の秘訣」（岩手県立大学　菊池和子教授）、「スポーツと生きがい」（岩手大学　浅沼道成教授）、第3回12月11日「仕事のなかの学び」（富士大学　堀圭介講師）、「糖尿病と共に生きる - 早期発見・早期治療で健康長寿 - 」（岩手医科大学、高橋和眞准教授）。


「糖尿病と共に生きる - 早期発見・早期治療で健康長寿-」

「スポーツと生きがい」

SD・FD合同研修会

平成22年11月29日（月）13：30～17：30に、FDプロジェクト委員会とSDプロジェクト委員会との合同で研修会を開催しました。講師に愛媛大学教育企画室准教授の秦敬治先生をお招きし、「大学教職員のための企画力養成講座～教職協働を目指して～」というテーマで、大学での問題点について教職員が共同で解決策を考え・実行できる能力の養成を目的に、

1）問題発見手法を実践することができる
2）多くの情報をグループ化することができる
3）問題解決提案を行うことができる
4）企画を効果的にプレゼンテーションすることができる

を到達目標として、ワークショップ形式で行いました。

参加者は、岩手大学から6名（教員1名を含む）、岩手県立大学4名、岩手医科大学4名（1名）、富士大学3名（2名）、盛岡大学5名の計22名（教員4名）で、所属大学や年齢層も異なる班編成でしたが、秦先生の巧みなアイスブレークのもと、グループでの会話も盛り上がり、最後のポスターセッションでは熱い議論が行われました。

グループディスカッションの様子

大学の枠を超えディスカッション

FDキャラバン

平成22年12月1日（水）17：00～19：00に岩手県立大学で行なわれた「平成２２年度第２回全学FD研修」に、FDキャラバンと称してFDプロジェクト委員会のメンバー３名が参加しました。

岩手県立大主催のFD研修は、「学生を主人公とした教育を考えるワークショップ」として実施され、中村慶久学長をはじめ、スタッフとして教職員13名の他、教員31名（遠隔講義システムによる宮古短大5名を含む）が学部や年齢に隔たることなく参加し、教育研究支援本部副本部長で、コンソのFDプロジェクト委員でもある吉野英岐先生の司会のもとで進められました。

研修では、コンソーシアムからの話題提供としてキャラバンに20分を頂き、コンソーシアムが行っているFD活動の紹介と、岩手大学で実施している教授技術「匠の技」伝承プロジェクトから、岡山大学教育開発センター教授の橋本勝先生が提唱する「橋本メソッド」について、授業の実写とインタビューでまとめたビデオを視聴し、学生主体授業の紹介としました。

また、キャラバンのメンバー1名（盛岡大学）が、県立大のグループの中に入り、授業で工夫していること、授業での問題点や課題とその対応策について議論を交わし、ワークショップを盛り上げました。

FDキャラバンの様子

グループディスカッションにて

YLIS国際合宿研修2010

「教育の国際化プロジェクト」として、共同作業やフィールドワークなどを通じてグローバルなコミュニケーション能力を高め、多文化理解等に関する実践教育を行うことを目的とした「ヤングリーダーズ国際研修」（H23.2.11～19）を開催しました。

本研修は、戦略的大学連携支援事業の一環として2008年度より開催されており、第3回目となる今回は「循環型社会と持続可能性」をテーマに、岩手大学の日本人学生4名、中国人学生2名、盛岡大学の日本人学生2名と岩手大学の学術交流協定大学であるタイ・サイアム大学から2名の学生が参加し、合計8日間の合宿研修を行いました。

研修中は、日本語と英語によるディスカッションや、エコスクール「森と風のがっこう」（岩手県葛巻町）、葛巻町内の見学などを通じ、持続可能な社会作りに必要なシステムや政策について考察しました。最終日の成果報告会では、これまでの考察を基にした架空都市の環境政策を立案し、発表を行いました。ひとつの班では「No Problem Town」という海辺の町を設定。景観を生かして観光客を集め利益を得ることや、様々な資源を地域間で補い合う関係を作ることが町の持続につながる、と発表しました。

参加者は本研修を通じて、岩手県内に残る持続可能性に関わる生産現場や生活スタイルを実際に体験することにより、現在でも尊重されるべき価値観に触れ、将来のコミュニティーの在り方を考えるきっかけを得るとともに、国境を越えた学生間のネットワークを構築し、信頼と友情を育むことで、国際的なコミュニケーション力についても多くのことを学びました。

ワークショップにて

森と風のがっこうにて

学生の地域参加プロジェクト

学生の地域参加プロジェクトは、岩手県立大学から3件の応募があり全てを採択し各活動が行われました。

「ホームレス支援プロジェクト」盛岡市内のホームレス支援として食事の提供だけでなく、人と人とのつながりを作り上げていき、物心両面で学生の立場での支援を行いました。

「地域を走る風になる！いわてチャリパト隊」自転車6台を購入し、岩手県立大学近郊の要援護者の見守り、防犯活動と万が一の災害時に備えるため自転車パトロールを実施しました。また、地域住民や地元警察などとも交流を深めるきっかけとなりました。

「ピアのピアによるピアのための集い in いわて」思春期の性教育など保健衛生についての一方的な知識の提供ではなく、仲間同士の関わりでの気づきや自分のこととして考える場が必要であることから、その場を作るピアカウンセリング・ピアエデュケーションの活動を継続的に行いました。また、平成23年1月15日（土）～16日（日）にかけて各団体との相互交流を行い、活動内容の質的向上を図ることができました。なお、各プロジェクトの活動・成果報告は2月19日（土）に開催された平成22年度シンポジウムで発表されたほか、岩手日報などでも報道されました。

いわてチャリパト隊

ピアのピアによるピアのための集い

八幡平市人材育成事業

平成23年2月12日と13日の両日、八幡平市の旧館市小学校の校庭にて、昨年9月から「学生による地域づくり活動 in 八幡平市」のプロジェクトを実施している学生のコアメンバー（岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学）を中心に、岩手大学のサッカー部員や留学生らが加わり、雪まつりを実施しました。

これは、9月に兄川公民館での合宿で学生が提案した地域活性化案の一つで、厄介物の雪を逆手にとって、豪雪地帯の厳冬期に地域の人々と雪像やかまくら等を作りながら交流を深めるという手作りの雪まつりです。当日はコアメンバーが参加学生のリーダーとなり、グルーピングやスケジュール等について的確な指示を出していました。

参加学生は、12日が40名（岩手大32名、県立大4名、盛岡大4名）、13日が34名（岩手大27名、県立大3名、盛岡大4名）で、館市地区（兄川、兄畑、館市）からは子どもたちを含め30名弱の方々にも参加（事前準備や当日のお手伝いを含む）して頂きました。

天候にも恵まれ、お昼には地域の方々のあたたかい手作り郷土料理をご馳走になり、寒さを吹っ飛ばしながら雪像やかまくら、雪明かり用のローソク作りなどに励んで、雪まみれの2日間となりました。

この雪まつりについては、毎日新聞（2月4日）と岩手日報（2月15日）で取り上げられた他、テレビ岩手で2月17日に約5分間の企画ニュースとして放映されました。

八幡平市雪祭り

雪灯篭

平泉文化フォーラム

平泉文化遺産関連の発掘調査成果や研究成果を広く県民に公開する第11回平泉文化フォーラムを、いわて高等教育コンソーシアムと岩手県教育委員会との共同主催で、平成23年1月29日(土)、30(日)の二日間にわたり、奥州市の胆江地区勤労者教育文化センターを会場として開催しました。フォーラムは今回で11回を迎えましたが、今回は、遺跡をどのように活かし、どのように伝えて行くかをテーマとしました。

コンソーシアム構成大学を代表し岩手大学藤井克己学長の挨拶の後、元奈良文化財研究所所長の田辺征夫氏から「遺跡を活かし、今に伝える－平城宮の復原整備と柳之御所遺跡－」と題した基調講演が行われ、平城宮跡の調査・整備の歴史を紹介しながら、柳之御所遺跡の整備に関しての今後の展望についてお話しされました。

午後からは、発掘調査成果報告が行われ、長者原廃寺跡や中尊寺大池跡等の成果報告が行われました。翌日は、岩手大学の菅野文夫教授や藪敏裕教授らによる研究報告が行われました。

このフォーラムは、毎年多くの熱心な参加がありますが、今回も参加者は400名を超えました。

フォーラムの会場が奥州市ということもあり、盛岡市近郊の住民の方々にも参加する機会を提供する目的で、コンソーシアム主催の「第11回平泉文化フォーラム・バスツアー」を1月29日(土)に、開催しました。フォーラムへの参加に先立ち、車中において、平泉文化に関する解説を行うとともに、奥州市埋蔵文化財センターで「平泉前史」に関する講義を受け、多角的に平泉文化を学習しました。

駅前講義

「共通キャンパスを活用した公開事業の実施」事業では、高校生に大学での学びや進路について説明し、知的好奇心と向学心を高め、県内大学進学率の向上に貢献することを目的として、以下の要領で駅前講義と出前講義を実施しました。

～いわて5大学駅前講義～

［第1回］平成22年11月19日、北上駅前おでんせプラザぐろーぶにて開催。人文・教育・心理、法・政治、経済・経営、福祉、看護、医・歯・薬の6分野。参加者数388人。

［第2回］平成23年1月17日～22日、盛岡駅前岩手県立大学アイーナキャンパスにて開催。人文、農・環境、教育・心理、法・政治、工学、経済・経営、福祉、栄養、情報、看護、医・歯・薬の11分野。遠隔講義（TV会議）システムを使って、県立一関第一高校と県立一関第二高校に映像配信。参加者数762人（うち509人は映像配信にて受講）。

～いわて5大学出前講義～

平成22年10月16日（土）、県立宮古高校にて開催。文系と理系の2分野。

どの講義にも多くの高校生が参加し、「大学についての理解が深まった」「自分の将来を真剣に考えるきっかけになった」といった声をはじめ、全体として好評でした。

北上会場での駅前講義

アイーナでの駅前講義

平成22年度シンポジウム

平成23年2月19日（土）にホテルメトロポリタン盛岡にて、「いわてのソフトパワーiHEC」をテーマとした平成22年度いわて高等教育コンソーシアムシンポジウムを開催しました。

第1部では、「学術ルネッサンスとイノベーション」のサブテーマとして5大学の学長からそれぞれの専門分野についてご講演をいただくとともに、パネルディスカッションを行いました。

第2部では、「いわて高等教育コンソーシアムの成果と展望」をサブテーマとして、後藤事業推進責任者（岩手大学教授）が事業の総括を行った後、学生発表を行い、いわて学（県立大：三浦さん、張偉さん、岩手大：中塔さん）、学生の地域参加活動［「ピアのピアによるピアのための集い in いわて」（県立大：高安さん）、「ホームレス支援プロジェクト」（県立大：土屋さん）、「いわてチャリパト隊」（県立大：早川さん）］、八幡平人材育成事業「地域に触れ、地域から学ぶ」（岩手大学：岩井さん）、地域医療・福祉の向上を目指す研究の推進（医大：佐藤さん）、教育の国際化「ヤングリーダーズ国際研修 in いわて」（岩手大：小笠原さん）の報告が行われました。当日は、関係者及び一般157名が参加し、コンソーシアムが果たすべき役割について一緒に考える機会とすることができました。

5大学学長による
パネルディスカッション

学生発表の様子

合同フォーラム

平成23年1月24日、25日に東京の秋葉原コンベンションホールにて、文部科学省が主催する、平成22年度大学教育改革プログラム合同フォーラムが開催され、戦略的大学連携支援プログラム採択事業として、いわて高等教育コンソーシアムの取組をポスター展示しました。

展示内容としては、これまで行った事業の概要、20事業の実施報告、成果のイメージ図、シンポジウムの案内などを展示するとともに、コンソーシアムの紹介DVDを放映するなど、初めての方にもわかりやすい展示を心がけました。

当日は想定数を超える関係者や一般市民など多くの方々に本事業について知っていただくことができました。

また、全国の各種プログラムに参加する大学関係者と貴重な意見を交わす機会とすることができ、実りの多い機会となりました。

パネル展示の様子

展示会場での様子

直撃！
学生インタビュー

YLIS 国際合宿研修 2010 ［教育の国際化・東アジアとの連携強化事業］

Q1. 事業に参加しての感想は？

率直に言えば、とても貴重な体験だったと感じています。普段の学生生活においても、たとえ社会に出てからであっても、自分の周りの社会のことや世界のことをあんなにも考える機会はないだろうと思います。また、ディスカッションや共同生活を通して、改めて自分の立ち位置や役割、考え方を再確認し、そんな自分と他人が共に生きていくことの難しさや喜びを知ることができました。

参加を決めてから始まるまでは不安と緊張がありましたが、大切な友人たちができ、夢を追い続ける姿をこの目で見て、今ではこれまでとは違った選択肢を持つようになった自分がいます。この研修に参加してたくさんの人と出会えたことや自分を見つめ直せることができ、とても有意義な一週間でした。

Q2.コンソーシアムに今後期待することは？

今回の研修を通して人と世界のつながりの重要性を学び、私自身もたくさんのつながりを持つことができました。

今後はそのつながりをさらにのばしていき、また新たなつながりをもっていきたいと考えています。

岩手大学のなかだけでなく、県内の大学や全国の大学、世界の人たちと情報を共有するやり方はたくさんありますが、私が体験したように共同生活をすることなどは、一般的には難しいことです。そこでコンソーシアムの事業によってたくさんの学生が時間を共有し、その中で自分の持つ知識や経験を互いに教え合い理解しあうことで社会全体の利益につながっていくのではないでしょうか。

今後もそうした学生がつながる機会をコンソーシアムが与えてくれることを期待しています。

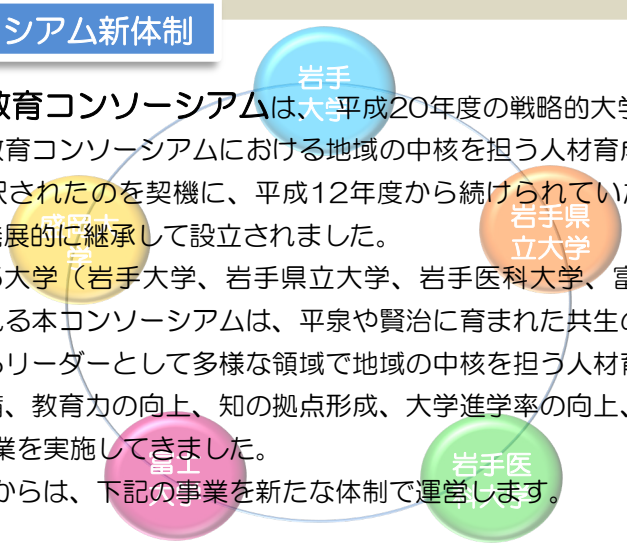
伊藤美緒さん（岩手大学人文社会科学部法学・経済課程2年）

今後の予定

平成23年度前期　「いわて学Ⅰ」講座予定表

回	日	時間	内容	講師	会場	
1	5/21（土）	9：30～11：00	人物から知るいわて	岩手県立大学 佐々木　民夫	アイーナ 803	
2		11：15～12：45	グループワークで考えるいわての地域特性	岩手県立大学 豊島　正幸		
3	6/4（土）	9：30～11：00	統計から知るいわて＊グループワーク	岩手県立大学 豊島　正幸	マリオス 188	
4		11：15～12：45	農業から知るいわて	岩手大学 岡田　益己		
5	6/11（土）	9：30～11：00	歴史から知るいわてA	盛岡大学 熊谷　常正	マリオス 188	公開
6		11：15～12：45	歴史から知るいわてB			
7	6/18（土）	時間未定	博物館から知るいわて（岩手県立博物館での実地講義）	岩手県立博物館 学芸員	県立 博物館	
8						
9	6/25（土）	9：30～11：00	自然環境から知るいわて（いわての山・川・海）	岩手県立大学 豊島　正幸	マリオス 188	公開
10		11：15～12：45	自然環境から知るいわて（鮭）	サケ研究家 渡辺　敞嗣		
11	7/9（土）	9：30～11：00	暮らしから知るいわて		マリオス 188	公開
12		11：15～12：45	暮らしから知るいわて（医療・看護・保健）			
13 14	7/16（土）	午前	南部鉄器から知るいわて（南部鉄器生産メーカー岩鋳での実地講義）	㈱岩鋳職員	岩鋳	
15		午後	いわての可能性を探る＊グループワーク	岩手県立大学 佐々木・豊島	ふれあいランド いわて	

いわて高等教育コンソーシアム新体制



いわて高等教育コンソーシアムは、平成20年度の戦略的大学連携支援事業に「いわて高等教育コンソーシアムにおける地域の中核を担う人材育成と知の拠点形成の推進」が採択されたのを契機に、平成12年度から続けられていた「いわて5大学学長会議」を発展的に継承して設立されました。

岩手県内の5大学（岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学）で構成される本コンソーシアムは、平泉や賢治に育まれた共生の思想を尊び地域全体を思いやるリーダーとして多様な領域で地域の中核を担う人材育成を柱に、教育環境の基盤整備、教育力の向上、知の拠点形成、大学進学率の向上、地域の活性化に関わる20の事業を実施してきました。

平成23年度からは、下記の事業を新たな体制で運営します。

いわて高等教育コンソーシアムの新体制

理事会

運営委員会

単位互換・高大連携推進委員会

＊単位互換の推進
＊遠隔講義システムの活用
＊高校生向け分野別講座
＊ウィンターセッションなど

FD・SD連携推進委員会

＊FD・SDの共同開催
＊FD・SDの情報共有など

地域研究推進委員会

＊地域文化（平泉・賢治）研究
＊地域スポーツの振興・研究
＊生涯学習の場の提供など

地域人材育成推進委員会

＊地域リーダー育成プログラムの開発・推進
＊コア科目（いわて学など）の開講
＊展開科目（国際教養科目など）の開講
＊国際交流の連携
＊地域医療・福祉の向上
＊学生による地域活性化活動の推進など

附属図書館長及び実務担当者会議

＊図書館相互利用
＊情報の共有・連携

知的資産活用検討会議

＊文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラム

岩手医科大学

学校法人岩手医科大学は、岩手医科大学、岩手医科大学医療専門学校（岩手医科大学歯科技工専門学校、岩手医科大学歯科衛生専門学校が平成23年4月統合）を設置しています。

岩手医科大学は、学祖三田俊次郎先生が明治30年に医学講習所を始めてから113年が経過し、その間「医療人たる前に誠の人間たれ」という学祖が唱えた建学の精神は脈々と受け継がれ現在に至っています。

岩手医科大学は、医学部、歯学部、薬学部の3学部で構成しています。現在、総合移転整備計画が進捗中で平成23年2月には新校舎が竣工しました。これにより、学部間の垣根を越えた他に類を見ない新しいコンセプトの教育体制、施設設備が整備されます。

広大な緑あふれるキャンパスの中で、最新の設備、優れた教育スタッフ、各学部の強い連携の下、学生・教職員が一丸となり、専門知識や技術習得のみならず、深い人間愛、社会性ある医療人、研究者への成長を目指します。

平成23年度2月竣工の新校舎

7テスラMRＩ研究装置
［世界で9台目、日本で実質1台目］

学生の早期体験実習の様子

編集後記

平成20年度より文部科学省戦略的大学連携支援事業の補助をいただき進めてきた本事業も、平成22年度で補助期間が終了いたします。平成23年度からは、これまでの実績を土台とし、いわて高等教育コンソーシアムをさらに発展的に継承し、平成26年度から始動するイーハトーブ大学（バーチャルキャンパス）へと繋ぎ、岩手の地、そして世界に貢献する豊かな人材を輩出する唯一無二のコンソーシアムとなれますよう、事務局をはじめ連携大学の教職員が一丸となり事業を展開させていただく所存でございます。

これまでの地域の方々の温かいご支援に対し心から感謝いたしますとともに、これからも地域の皆様の一層のご協力、ご支援を心よりお願い申し上げます。

構成大学

岩手大学 http://www.iwate-u.ac.jp/
岩手県立大学 http://www.iwate-pu.ac.jp/
岩手医科大学 http://www.iwate-med.ac.jp/
富士大学 http://www.fuji-u.ac.jp/
盛岡大学 http://www.morioka-u.ac.jp/

発行連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局
（岩手大学研究交流部研究協力課内）
〒020-8550　岩手県盛岡市上田三丁目18-8
TEL：019-621-6853　FAX：019-621-6995
E-mail：ihatov5@iwate-u.ac.jp

平成23年3月30日発行